

実質化された仙台市地域農業基盤強化プラン(人・農地プラン)

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	当初作成年月日	直近の更新年月日
仙台市	根白石	H25.3（実質化R3.3）	R5.11（13回目）

1. 対象地区の現状

① 地区内の耕地面積	1,142.6ha
② アンケート調査等に回答した地区内の耕作者の耕作面積の合計	712.4ha
③ 地区内における75歳以上の農業者の耕作面積の合計	76.4ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	28.3ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0ha
④ 地区内において今後中心経営体が引受ける意向のある耕作面積の合計	32.4ha
備考 （アンケート等で把握した地区の現状）	
・ 中間管理機構の活用意向（担い手）：約6割	
・ 中間管理機構の活用意向（出し手）：約4割	
・ 基盤整備の実施意向：あり（根白石地域、福岡地域、朴沢地域）	
・ 地域の特産としたい作物：水稻（酒米）、きのこ類、つるむらさき、ミニトマト	
・ 有害鳥獣防止対策：ワイヤーメッシュ柵、電気柵、罠の設置	

2. 対象地区の課題

<p>今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積よりも、75歳以上で後継者未定の農業者の耕作面積の方が、西田中地域、朴沢地域で多く、新たな農地の引き受け手が必要。ただし、土地条件が悪い農地は受け手とのマッチングに至っていない。</p>
<p>①山間地の条件の悪い農地は担い手が所有する大型機械では畦畔が崩れるため耕作できず、地域内の農地は区画が狭く高低差があるため、担い手の規模拡大に限界がある。</p>
<p>②担い手の農地がまとまっていない。</p>
<p>③堀払い等用排水路の保全是地権者も参加するようにしているが、高齢化により参加者が少なくなってきている。</p>
<p>④米だけでは収益が上がらない一方で、高齢化や労働力の面から園芸作物の取組は難しい。</p>
<p>⑤泉ヶ岳や団地近郊の立地条件を生かした取り組みが必要。</p>

3. 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

- ・ほ場整備済の実沢地域、小角地域、西田中地域、朴沢地域、福岡地域は、認定農業者等中心経営体に集積を図る。
- ・未実施の地区については、認定農業者等中心経営体に集積を図る他、担い手が少ない条件不利地については、機械利用組合等の設立を検討し共同で耕作する。

4. 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針

農地の貸付等の意向

貸付け等の意向が確認された農地は、田308筆 42.1ha、畑76筆 7.0haとなっている。

中間管理機構の活用方針

- ・農業をリタイア・経営転換する人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける。
- ・担い手の農地分散を解消するため、利用権を交換しようとする人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける。

鳥獣被害防止対策の取組方針

- ・獣害対策協議会（藤沢、根白石）においてワイヤーメッシュ柵を共同で管理し、修繕作業等を引き続き実施する。
- ・地域ぐるみの捕獲対策において共同で捕獲活動を実施し農作物被害の発生防止を図る。

5. 地域課題に対する対応方針

①山間農地は大型機械所有の担い手では耕作できず、担い手の規模拡大に限界がある。

ほ場整備済の地域は中間管理事業を活用して担い手に集約し、それ以外の地域は任意組織を作り共同で耕作する仕組みを作ることを検討する。

②担い手の農地がまとまっていない。

農地利用調整委員会を立ち上げ、担い手が集約した農地で耕作できるように調整を行うことを検討する。

③高齢化のため共同作業の参加者が少なくなっている。

日本型直接支払制度を活用し、地域での用排水路の管理に努める。

④水稲だけでは収益が上がらず園芸も難しい。

水稲をやりながら、負担の少ない園芸作物等の取組を検討する。

⑤立地条件を生かす取組が必要。

泉ヶ岳の行楽客や団地住民向けに地場産品を販売する直売所や、地場産農産物を使った加工品の開発と併せて加工場の設置等を検討する。